

**本陣**  
寛永11年(1634)將軍徳川家光の上洛の際に宿泊予定の邸宅の主人を本陣役・本陣職に任命したのが起源とされ、翌年の参勤交代導入とともに制度化された。本陣には宿泊者から謝礼が支払われたが、必ずしも対価として十分なものではなかった。そのため主人には名字帯刀、門や玄関、上段の間を設けることができた。宿泊できるのは大名や旗本、幕府役人、勅使、宮、門跡などで、原則として一般人は泊まることができなかった。宿役人の問屋、村役人の名主などの居宅が多かった。



**法華寺** 日蓮宗寺院の法華寺は、神寿山法華寺と号し、天保6年(1835)に起立、安政3年(1856)防風によって大破、元治元年(1864)に小塚原法華庵として再建。小塚原法華庵の死刑囚の菩提を弔った。大正12年(1923)に小塚原から赤羽岩淵へ、大正15年(1926)に当地へ移転しました。

**8 千住宿 ~ 草加宿**  
東京都足立区  
**竹の塚 ~ 保木間**  
(歩行距離 1709m 22分)  
歩く地図でたどる日光街道  
<http://nikko-kaido.jp/>  
JZE00512@nifty.ne.jp

**白旗塚**  
西保木間三丁目交差点から、450m、東武鉄道スカイツリーラインを越えて、行くと、左に空き地に小さな丘がある。これが白旗塚で「住古(そのかみ)八幡太郎義家朝臣奥州征伐の時、この地に白旗を建て凱歌を唱へしより、この名ありとぞ。近頃までこの塚上(ちよじょう)に小祠あり。その傍へ立ち寄るものあれば崇(たたり)ありし故、社(やしろ)荒廃におよびけれども、その傍に再建もせざりして、今塚ばかりを在せり」(江戸名所図会)とある。  
この近くには、桂昌院の墓がある法受寺、助六・揚巻の墓のある易行院、塩原太助の墓のある東陽寺など、浅草寺付近にあった寺が移転してきている。



**高射砲第百十一連隊第一大隊保木間陣地跡**  
ここからの射撃によりB29を撃墜。区立東洲江国民学校に駐屯した陸軍警備歩兵第五大隊(東部6682部隊)により機体残骸から2遺体が回収され、後に発見された4遺体と共に現場に埋められた。  
当時の高射砲は射程がわずかに足りず超高空を飛来するB29を撃墜できず、爆撃中の高高度でないと撃ち落とせなかったという。

**十三仏堂**  
この堂は、旧保木間村の三ノ輪厨子によって守られてきたもので、建造年月は詳らかではない。新編武蔵風土記稿には「庵、行基ノ作レル虚空蔵ノ木像ヲ安ス」とある。  
十三仏とは、初七日から33回忌までの13回の追善供養のために組合わせた仏のことで、不動・釈迦・文殊・普賢・地藏・弥勒・薬師・観音・勢至・弥陀・阿闍・大日・虚空蔵を指す。堂内には、この十三仏のうち、弥勒が欠け、大日が金剛界と胎動界の二体となっている。



**氷川神社**  
須佐之男命、豊受姫命、菅原道真を祀る。当社の創建は明らかではないが、中世この地は関東の豪族千葉氏の陣屋跡と伝えられ、妙見社が祀られ、のち天神を祀る菅原神社となった、それ故に隣接の天神社別当寺宝積院は、その山号を北斗山と称するといふ。  
江戸時代、保木間・竹塚・伊興三村の鎮守は、もと伊興氷川社で、明治の初め当社もそこに合祀されたが、明治5年分離して、社名を氷川神社と改め保木間村の鎮守となった。  
この地域一帯は、伊興地区について早く開け、平安期未から鎌倉期にかけて発展した。保木間の地名は、平安期末に西国の武士が木の柵を設け、田畑を起こしたことによると伝えられている。またこの地域では、古墳時代の土師器や鎌倉期以降の板碑などが多く出土している。  
平成元年1月 足立区教育委員会

**竹塚神社**  
後天喜4年源頼義公奥州東征の折、当神社境内に宿陣相成り、明治年間に至るまで境域に環濠が存し、本宮の跡と伝えられる。頼義公お手植の大樹松有り、凡そ800年霜隔てる嘉永2年6月6日、雷火の為に枯れるに依りて、延慶2年以後の社殿造替の用材と為せり。  
明治7年村社に列せらる。明治以降氏子崇敬老よく、神徳発揚、社地整備を図り面目一新す。



**足尾鉍毒事件**  
氷川神社と宝積院の一帯は足尾鉍毒事件のゆかりの地。鉍毒被害を訴えるため東京へ向かう栃木・渡良瀬の農民3,000余名を田中正造が制止したのがこの地。境内を埋め尽くす農民に正造が自重を促す演説。この懇請を受け、農民は渡良瀬へと引き返した。



**宝積院**  
創建は、遠く慶長年間(1596)以前と思われる。室町時代後期、淵江領を領地とする千葉一族は、当院境内に妙見菩薩(千葉一族の守り本尊)を祀り、当院本尊十一面観世音菩薩とともに地域の信仰の中心として栄えた。

**東武鉄道竹ノ塚駅**  
「伊興村」(いこうむら)に開設されましたが、隣村の「たけのつか」名がついたのは、駅名を喚呼する時のことばの響きが良いという理由です。この地には白旗塚をはじめ甲塚・播鉢塚・聖塚など沢山の塚があり、それらが年月が経つにつれ荒れ果て、熊笹や竹藪がびこったため、「竹の塚」と総称されたことによります。



**流山道**  
東西に走る小道は、江戸の昔から流山道と呼ばれた古道です。保木間で日光道中から分かれ、南花畑の大鷲神社、成田山、内匠橋、六木を経て流山に向かう道。西は西新井大師へといく信仰の道で会った。

**宿場**  
街道の往来は徒歩か馬によるものであり、途中で宿泊所や休憩所、馬に対する給餌や馬の乗り換えが必要であった。また、急を要する手紙などを運ぶ場合、早馬によるリレー形式で行く方が効率的で、その中継ぎの場所が必要だった。奈良時代・平安時代から駅馬・伝馬の制度によって整備されていった。宿場を中心に形成された町を宿場町とよぶ。

